

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校は、昭和51年4月大阪市淀川区に 社団法人 新歯会 附属新大阪歯科技工学院とし、厚生省の指定を受け創設。昭和59年には校舎を新大阪から東三国に移転、昭和61年4月に社団法人 新歯会 附属新大阪歯科技工士専門学校と改め、平成25年4月から公益法人法の改正に伴い、経営母体を姉妹校である学校法人 新歯会東洋医療学園に移行する申請手続きに入る。</p> <p>本校は開校以来、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、その使命を実現するために、建学の理念を「実学教育」「人間教育」「国際教育」の『3つの教育方針』とし、「学生」「就職先」「高等学校」「地域の方々」から信頼される『4つの信頼』の構築を運営目標とし、37年に涉り歯科技工士の養成を行ってきた。</p> <p>現在、学校長 大阪大学名誉教授作田守先生の指導の下、学科構成は、歯科技工科(I部：昼間部90名/II部：夜間部60名)である。高齢者への大切な福祉である、より機能性の高い補綴物の製作、並びに新しい技術を伴う審美歯科の基礎的な知識・技術を修得、併せて問題解決能力のある歯科技工士の養成を目指し開設。</p> <p>尚、歯科技工士は厚生労働省の指定学科で、特に、国家試験には全員の合格を目指し、業界が求めるニーズに添った優秀な医療系スペシャリストの養成を目指しています。</p>	<p>本校は歯科技工科 I部(昼間部)2年制・II部(夜間部)3年制からなる専門学校であり、基本的に共通の教育システムに基づき教育がなされている。国家試験の合格はもちろん、基本的知識・技術・医療人としての心構えと豊かな人間性を備えた歯科技工士を養成するためのより効果的な教育を行う為に、独自の教育システムで教育を行っている。即ち、「自己変革教育システムPIBAP(ピバップ)」。自己発見の場として入学の前から教育が開始される入学前教育(P:プレスクール)。I部、II部共に1年生の4月から7月まで、基礎学力のレベルを整え、専門基礎にスムーズに移行、又、医療人としての目的意識をしっかり身につけ、目標を明確にする自己変革意識の動機づけとしての導入教育(I:イントロダクション)。I部では1年生の9月から2年生の7月、II部では1年生の9月から2年生の3月まで、学びの基盤を固め、その上で基礎教育による知識、技術を築き上げ自己変革意識の定着を図る基礎教育(B:ベーシック)。I部では2年生9月から卒業まで、II部では3年生の4月から卒業まで、身につけた専門基礎知識、技術を基に、総合的に理解を深め国家試験に対応させる応用教育(A:アプリケーション)。卒業してから業界人として継続的にキャリア形成を図り、末永く自己形成をしていくために卒後研修などの卒後教育(P:ポストグラジュエート)と本校では、入学前から在学中は基より卒業後までをフォローする時系列名教育システムと、専門分野で実践できるよう応用力をつけ、ひとりひとりの主体性を尊重し、自ら考え行動できる自立能力を養う問題志向型教育システム(POES教育システム=Problem Oriented Education System)を取り入れ、両教育システムを組み合わせ、自己変革意識の育成を図り、自己確立を目指している。このように、目標に到達するまでに各時期において教育目標を設定し、学習者の実態に応じて段階的にステップアップさせ、知識・技術を積み上げるだけでなく、主体性を持ち、継続教育を実践し、業界でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指している。</p>

【教育理念・運営目標】

「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、「建学の理念」である「3つの教育方針」即ち、実学教育・人間教育・国際教育を実践し、運営目的である「4つの信頼」即ち、学生本人、就職先及び各業界、高等学校、地域から信頼される学校、学科を目指し、強い滋慶ブランドを構築する。

【育成人材目標】

広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身につけ基本的知識、技術を発展的に捉え、常に新しい技術を追求し、未来を見つめる「心構え」即ち「主体」を持った社会に必要とされる職業人育成を目指している。この「主体」の修得こそ本校が目指す教育であり、グループ共通の3つの教育方針「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体」を持って、現代の社会で自己の未来を切り開いていく創造的能力と、勇気と信念を持った人間の育成、各業界でリーダーとなれる人材の育成を教育の目標としている。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	宮川藤一郎
--------	------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	理念・目的・育成人材像は、明確に定め教職員、学校関係者が共有すべき最も大切なものであると考えている。	建学の理念を、実学教育、人間教育、国際教育の「3つの教育方針」を実践し、運営目標である「4つの信頼」即ち、学生、業界、高等学校、地域からの信頼の構築を目指している。	非常勤講師に対する教育理念、教育目的をさらに明確にすることを課題とし、意識統一に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導要領 ・学生便覧 ・学校案内 ・HP
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	理念・目的・育成人材像は教育成果として実現することを目標としている。入学前から卒業後までの教育を体系的に捉える教育を方針としている。	学生・教職員全員に配布する学則及び、学校案内、学校 HP にも記載している。教育理念・教育目的・育成人材像をシラバスに落とし込んでいる。	年度始めと後期始めに全体講師会議を実施、理念、目標、育成人材増について重ね重ね説明し協力を求めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	理念・目的は不変のものであるが、実行方針、実行計画は時代の変化に対応して適宜見直す姿勢を持つ。	毎年、見直し改定した実行方針、実行計画を事業計画書に記載し、全教職員に発表日を設けている。	社会の変化、制度の変化により改定された内容の周知徹底を図るため、毎月の全体会議等を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学生・教職員および関係者に周知を図り、また、広く学外に公表し、その上で、実践すべきであると考えている。	学生・教職員全員に配布する学則及び、学校案内、学校 HP にも記載し広く公表している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導要領 ・学生便覧 ・学校案内 ・HP 他

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
明確に定められた理念・目的・育成人材像をベースに学校は運営されている。各業界のスペシャリストを輩出する養成機関として、社会に質と量を保障できる教育を実践しなくてはならない。	「職業人教育を通して社会に貢献する」ことが、全教職員の共通ミッションである。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	宮川藤一郎
--------	------------	-------	-------

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	<p>1) 運営方針、教育理念が確立し、全教職員の方針が共有されていること。</p> <p>2) 教育成果、運営成果を高める為のシンクタンクが存在すること。</p> <p>3) 限られた教育機関で教育成果を高める為の独自の教育システムが有ること。</p> <p>また、国家試験合格に向けた独自のWEBシステムがあること。</p>	<p>1) 前述のより教育目標を「4つの信頼」とし、実現の為の教育理念を「3つの教育方針」とし、教職員全員が共有している。</p> <p>2) 教育成果、運用成果を高めるために『滋慶教育科学研究所』を設立、教職員の研修、又、学会を開催し成果を上げている。</p> <p>3) 教育効果をあげるために前述の独自の2つの教育システムを取り入れている。</p> <p>時系列な PIBAP (ピバップ) 教育システムと問題解決思考型の POES 教育システムです。</p> <p>また、WEBでの対策に力を入れている</p>	<p>本校独自の PIBAP 教育システムをベースに作成されるカリキュラムに、キャリア教育の視点にたった内容を加え、更なる職業人教育の質を高めていかななくてはならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧 ・学校案内

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	宮川藤一郎
--------	------------	-------	-------

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
3つの教育(教育理念)・4つの信頼(運営目標)をベースに、育成人材目標の達成のため、独自の教育システム(PIBAP)を実践し、学生個人の自主性強化のため POES 教育システムを導入し、社会に貢献し各業界でのリーダー的存在になれる人材育成を目指している。	

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	業界 NO1 の学校、学科を目標とし、5年後の将来像を見据えた中期的構想が重要と考えている。社会の変化・業界の変化を対応し、ブランド力のある学校を目指していく。	グループ全体で 5 年ごとに立案される本年は第 5 期 5 ヶ年計画の初年度を迎えている。毎年、次年度及び 5 ヶ年の事業計画書を作成し、教職員全員に周知している。 具体的には「存在意義のある学校としてのブランドの確立」のため 4 つの信頼を実践していく。「各学科における職域の拡大」のためマーケティングに基づくイノベーションを行い、新たな活躍フィールドを開拓していく。「情報開示の充実」やオープンな運営を目標とし、自己点検自己評価を実施し、学校環境の更なる改善を目指す。	中長期的構想の具現化のためのベース作りが必要とされる。そのためには、個のエネルギーを高める必要がある。教職員が自己研鑽に励み、5 年先、10 年先を見据えていく姿勢が重要である。グループで行われる研修や外部研修に積極的に参加し、得た知識技術を現場にフィードバックし、教育を実践していくことで、その完成度は高まっていくことと考える。理念やコンセプトを同じくした成熟した個のエネルギーのグローバル化が学校のブランド力となることと考えている。	平成 24 年度事業計画書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
グループ全体の 5 ヶ年計画をベースに学校全体の組織目的・運営方針を決定し、それをもとに各セクションごとで実行方針・実行計画を毎年作成している。事業計画発表会で教職員全員に周知を図っている。	

最終更新日付	2014 年 3 月 31 日	記載責任者	満尾 宏史
--------	-----------------	-------	-------

基準2 学校運営

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>滋慶学園グループ5ヶ年計画に基づき、学校運営の基軸として毎年事業計画が作成されている。</p> <p>事業計画では、組織図、職務分掌、人事採用、人事研修、広報計画・広報スケジュール・イノベーション、新規事業、教育スケジュール、就職スケジュール、学校行事、インセンティブ、意思決定、業績評価、将来像、収支予算などが明確に定められている。</p> <p>理事長が基本方針(組織目的・運営方針)を示し、各セクションで実行方針・実行計画についての協議が行われ作成されている。</p> <p>作成された事業計画は、学校運営会議、法人理事会の決議を受け、承認を得るものとなっている。</p>	<p>学校運営の基本概念として以下の組織目的を定義している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、「建学の理念」である「3つの教育方針」即ち、実学教育・人間教育・国際教育を実践し、運営目的である「4つの信頼」即ち、学生本人、就職先及び各業界、高等学校、地域から信頼される学校、学科を目指し、強い滋慶ブランドを構築する。 ○ 仕事に楽しくチャレンジする等、人を中心に置く運営を通し、運営力、マネジメント力に富んだリーダーを育成する。 <p>各業界の人事部として、定員人数の確保と職業人としての資質を高め、高度化に寄与する人材の育成に努め、各業界が求める人材の「量」と「質」の保証に努める。</p> <p>各々の学校・学科が、国内に於いて“No1””Only1“を目指すと共に、各業界との深い関係、並びに広く世界の職業教育機関との関係を深め、国際的に通じる職業教育機関を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループのガバナンス体制を確立し、また、コンプライアンス・収支バランス等を重視し、グループ力を持った健全な経営体制を築き、安定した強い組織を造る。 <p>滋慶グループの関連企業、委員会、研究所等と学校現場が効果的、機能的に関連し、各組織が自立的に主体性を持ち、活性化した現場力のある自立集団を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 無駄の無い、合理的な運営を図り、節電対策、地球温暖化対策にも積極的に協力する。 ○ 環境の変化を捉え、常にマーケティングやイノベーションの出来る組織を目指す。 ○ 滋慶グループのネットワークを活かし、運営並びに教育の充実を図る。 ○ 運営方針としての7つの視点を重視し、積極的に取り組む。 ○ 運営の成果を高める為にP・D・C・Aサイクルを実践する。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。	事業計画書において明示されている。	各セクションにおける作成段階の協議をさらに深めていく努力が必要である。	事業計画書
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	運営方針は全教職員が共通認識を持つべきものと考えている。	毎年、次年度事業計画書を使用し全教職員が参加する事業計画発表会が開催されている。	全体での会議や研修だけでなく、各セクションでのミーティングにおいても確認が必要である。	事業計画書
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	運営方針をもとにした各種規定を定めることにより、さらに合理的な運営を目指している。	各種規定（機密文書規定・個人情報保護基本規定・教職員慶弔見舞金規定など）が定められており、教職員がいつでも閲覧できるようになっている。	就業規則や規定に関する共通認識と理解がさらに必要である。そのための研修も検討中である。	就業規則

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
年末に行われる事業計画発表会で学校運営方針や各セクションの運営方針が発表され全教職員が共有している。また各月に開催される全体会議において運営方針に沿った話し合いが行われている。共通認識が最重要課題である。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められるべきだと考えている。	組織目的・運営方針をもとに各セクションの実行方針・実行計画が定められている。	環境の変化による迅速な計画変更など、スピード感のある対応が今後さらに求められる。	事業計画書
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	学校は事業計画に沿って運営されるべきものと考えている。	事業計画発表会で昨年度の振り返りを行い、適時見直しを図り次年度の計画を立てている。	事業計画における個人認識の共通化を今後さらに図っていきたい。	事業計画書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
事業計画書及び事業報告書は毎年作成されている。毎年行われる事業計画発表会で前年度計画の成果を振り返り、次年度の計画を発表することで、全教職員の事業計画共有が図られている。	事業計画の内容 ① 組織目的 ② 運営方針 ③ 定量・定性目標 ④ 実行計画 ⑤ 組織図 ⑥ 職務分掌 ⑦ 部署ごとの計画及びスケジュール ⑧ 業績評価システム・意思決定システム ⑨ 5年後の将来像 ⑩ 収支予算

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	組織図は明確にすべきものと考えている。	組織体系を組織図で表している。	特になし	事業計画書
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	組織運営の意思決定システムは目標達成に効率的なものを目指している。	目的によって主催者・対象者をわける方法(会議などの種類)をとり意思決定システムを構築している。	意思決定の内容は会議やミーティングなどで伝えられているが、より周知をはかるシステムが必要である。	事業計画書
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	職務分掌及び責任の所在は明確にすべきものと考えている。	職務上の役割は職務分掌に明記されており、各セクションでリーダーシップとフェローシップが作用するよう定めている。	特になし	事業計画書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
組織図どおりに運営が行われている。組織図は毎年作成される事業計画に盛り込まれており、適宜改変されている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	教育は指導教員の質と意欲が大切であり、事務職員は教育環境を整える役割が有ると考えています。そこで、職業教育の質の担保と向上に添った採用と適宜研修を行いスキル面とマインド面の育成を図っている。	具体的には、一般職は新卒採用とし、専門職採用は経験豊かな中途採用と本校の優秀な卒業生を採用し、又、研修は、本校独自の研修に加え、滋慶グループとして初任者研修始め、教育、広報、就職と業務に添った研修を実施している。	・特にありません。	・滋慶教育科学研究所の年間研修計画書
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	職員の評価に関しては、生計を共にする配偶者や子供のこともあり、出来るだけ平等な評価を考えている。	各人の目標シートと人事考課シートによる仕事の質、仕事の量、又、能力、情意に関し、聞き取り、上司と責任者の2名で評価をする方針である。	・学校教育は、仕事の役割の異なる分担型の仕事である上、定量評価が非常に困難で公平な評価が非常に困難である。	・目標シート ・人事考課シート
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	組織が小規模な為に、昇進、昇格は立場では無く、役割(配役)と考え、その役職に相応しく成長した段階で欠員があれば昇進、昇格を考えている。	コンプライアンスの関係上必要な役職は常に充足している。	・現時点では、特に有りません。	なし
2-7-12 賃金制度は整備されているか	賃金制度に関しましても配偶者や子供のことも考え出来るだけ平等な評価を行っている。	年齢給を中心とした基本給と、職能給、並びに、役職手当、調整手当を採用している。 賞与は夏季、冬季の2回支給	・職場が仕事分野の異なる職務の集合体で定量評価が非常に困難である	・年齢基本給一覧

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-13 採用制度は整備されているか	一般職は意欲のある優秀な人材の確保を目指し、毎年定期的に採用をしている。 専門職は計画採用と欠員採用の両建てで行っている。	毎年、滋慶グループとして一般職を中心に合同での求人を行っている。 専門職は、本校の情勢に合わせ卒業生又は、経験豊かな専門人材の採用をする。	特にありません	
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	専門職は下より、一般職を含め教職員の移動は的確に把握できている。	各学科共に学科長から、又、事務職員は事務局長又は次長から総務担当に連絡があり責任者に報告をされる。	特にありません	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校運営に関する人事、特に、医療系の人事は、厚生労働省の指導要領に基づくコンプライアンスを満たし、学校運営に必要な事務職員を確保し、職務が過剰負担にならない、その上、マネージメントの真の目的である給与面からの教職員の生活の保障をし、職場満足度の高い職場環境造りが大切です。	人事面では、滋慶学園グループの組織の中で採用や一部人事異動が可能であり、人材の育成に関しては、本校独自の研修は基より、特に、グループ内に滋慶教育科学研究所を設置、広く教職員の人材の研修を行っていることが、成果と共に特徴である。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	宮川藤一郎
--------	------------	-------	-------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	学) 新歯会東洋医療学園寄付行為に基づく理事会を中心とした意思決定システムが確立されている。	理事会・評議員会・運営会議・全体会議・各セッション会議を行っている。		事業計画書
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	学) 新歯会東洋医療学園寄付行為に基づき、意志決定プロセスが制度化されている。	会議開催が制度化されており、それ以外にも適時開催されている。		事業計画書
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	意思決定の階層・権限等は明確である。	階層・権限別の会議が制度化されている。		事業計画書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
意思決定の内容により法人理事会、学校運営委員会、全体会議、各セッションのミーティング(教務会議、前期/後期講師会議)等で決定されている	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	業務効率化を図るため全教職員がパソコンを使用し、メールによる連絡など効率化を目指している。	教職員は staffnet システムを使用し共有サーバーでの情報共有にも取り組んでいる。	今後会議等においてのペーパーレス化も視野にいれ考えていかなくてはならない。	特になし

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校に関する重要データ(学生・卒業生・教職員・広報・財務など)は滋慶学園グループ独自のデータベースシステムで一元管理されている。通常業務においては、共有サーバーを使用し無駄な情報や作業を省いている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

基準3 教育活動

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>滋慶学園グループは、職業教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」の3つの建学の理念を実践することにより専門職を目指す学生を業界の望む技術・知識・仕事をする上での身構え・気構え・心構えを持った即戦力の人材に育成することにより、4つ(学生・業界・高等学校・地域)の信頼を得ることを目的とする。</p> <p>業界で求められる身構え、気構え、心構えを身につけたプロ人材として養成し、入学した学生を国家試験に100%合格させる。</p> <p>100%の国家試験合格率を維持するためには、成績不良者への十分な対応が望まれる。成績不良者への濃厚な対応はドロップアウト率の減少だけでなく、国家試験100%に繋がるものと確信している。そのためには、全体目標と学科目標を定め、カリキュラムについては、指定規則で規定されている教育内容以上の時間数を取得させると共に本校独自の指定規則外教科を設け、成績不良者への対応は基より常に業界をリードする教育レベルを確保するよう運営している。</p> <p>教育活動状況についてはカリキュラムに基づき、シラバスを作成することで学生の到達目標の明示化などを図り、成績評価の客観性の確保等、常に到達レベルを見直し、位置づけを明確にしている。授業評価については、各学年次の科目終了前に実施している学生による授業アンケートを中心に各教員にフィードバックし、教育内容の向上を図っている。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 歯科技工の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。	業界のニーズは、幅広くかつ即戦力であるため、基本的な知識・技能だけでなく、問題解決能力の育成を充実させ、業界からも一定の評価を受けるよう努める。	基礎模型から臨床実習模型を取り入れ、即戦力に対応できる人材の育成を目指している。また、POES 教育を取り入れ、自らが考えて、行動できる人材の育成に取り組んでいる。		教育指導要領 シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
業界のニーズは非常に幅広く、求められる人材も多種多様である。また、卒後は、即戦力となれるように基本的な知識・技能の修得を目指している。さらに、社会人として必要なキャリア教育に力を注いでいる。	特記なし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は業界が求めるレベルに適合しているか。	キャリア教育を充実させる そのためには、基礎教育だけでなく、自らが考えて行動できる問題解決能力が備わった人材の育成や社会人としての必要なキャリア教育としての要素をピックアップして学生到達度をチェックする。	業界から多くの講師をお招きし、学生作品の採点、プレゼンテーションおよびキャリア教育的要素をチェックして頂き、更なるレベルアップを目指して教育に反映している。	実習作品に対する評価は数値化できるが、人間教育やキャリア教育は数値化しにくい。そのため、学生自らが自己点検できる教育環境を充実する必要性がある。	教育指導要領 学生自己点検表の作成 (人間教育、キャリア教育)

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
限られた期限内で教育効果を向上するためには、教職員全体で目的意識を明確にする。そのためには、評価方法が難しい人間教育やキャリア教育に対する学生自らに気づきを与えるための自己採点チェック表を作成し、業界に評価されるように努める。	特になし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
---------------	------------	--------------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか。	目標達成に向けて体系的に組立て、取組んでいる。	問題点が出てきた際には、積極的に問題解決して改善している。	講師会議や業界懇談会を積極的に活用する。	教育指導要領
3-12-4 カリキュラムの内容について業界など外部者の意見を反映しているか。	業界や他施設の教員との意見交換を行う。	大阪府歯科技工士会や関西地区歯科技工士学校連絡協議会などで意見交換や会議を行っている。	教員全体での意見交換の機会を多くしたい。	関西地区歯科技工士学校連絡協議会総会資料
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか。	学科長を中心に作成したカリキュラム案を全教員で協議する。	学科会議でカリキュラム作成に関する知識の共有を行っている。将来は全ての教員が同一レベルの知識を得るようにしたい。	今後は教員全員に周知徹底し、明確な体制を維持したい。	教育指導要領
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか。	学科長を中心に作成したカリキュラム案を全教員で協議する。	作成したカリキュラムに対して、技術や知識習得だけでなく、人間教育、英語教育およびキャリア教育を含め総括的に効果的なカリキュラム編成を行う。	総括的に効果的なカリキュラム編成を行い、状況を判断しながら見直しを行う。編成体制を維持していきたい。	教育指導要領

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
カリキュラムの編成については、国家資格に合格させることを目的とし、業界のニーズ、社会的なニーズ、人間としてのニーズおよびキャリア教育的な観点で総括的で効果的な教育体制の組み立てが行われている。	国家試験合格をゴールにカリキュラムは編成されなければならない。またゴールまで高い学習意欲が持続できるように指導を心がける

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。	各教科はカリキュラムの内容が独立して成り立つものであると同時に、縦と横のつながりをもたせるよう位置づけしている。	シラバス、教務日誌および教務会議により互いの指導内容や進行状況を把握できるようにしている。	各科目にどのような到達目標があるのか、それぞれの指導教員が意識することが大切であるため、教員間のコミュニケーションを密にしおたがいの状況を確認しあうことが重要であると考えている。	教育指導要領
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか。	PIBAP 教育システムに従い、到達目標・評価基準などが書かれたシラバスを作成している。	講義は主に大阪大学歯学部（歯科医師）による講義であるが実習においては専任が行い、講義内容の調整を行っている。	教員間で常にコミュニケーションを図りながら確認する。	シラバス
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。	各シラバスには授業ごとの教育内容が記載されていると同時に到達目標も記載している。	シラバスに則って授業が実施されている。	各年度により講義内容が異なるように、教員間で常にコミュニケーションを図りながら確認する。	シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
シラバスの作成は学生の授業目標や評価方法を理解させることができるだけでなく、各教員の授業進行をコントロールすることができる。学科の方針を理解させる上でも重要である。	特になし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	本校は国家試験に合格させるだけでなく、人間教育やキャリア教育の充実を図り、社会人として立派な人材の育成を行う必要がある。	マナー教育・就職オリエンテーション、企業説明会などを通じてキャリア教育をおこなっている。	キャリア教育の時間を特別に設けるだけでなく、学園生活そのものがキャリア教育の場となるべきであり、日頃の授業でも細やかな指導をおこなっていかなければならない。	Hand-book of LIFE STYLE
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	日頃の授業や学生生活でキャリア教育の学生自己点検表を作成し、キャリア教育の重要性を学生に浸透している。また、卒業後に就職した企業に訪問し、教育の改善を図る。	卒業生の就職先を訪問し、雇用側からの卒業生の情報を収集し、学校教育に反映している。	就職先の企業から得た情報をもとに、キャリア教育学生自己点検に反映していく。	就職先訪問報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
平成 23 年 1 月 31 日に中教審から発表された答申にしたがいキャリア教育に取り組んでいる。実習の中で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーション、問題解決能力をつける指導により効果を挙げている。	働くための知識技術と社会で生きていくための人間力を踏まえたキャリア教育の充実が求められる。入学前から卒業後に至るまで、フローでのキャリア教育構築を目指す。

最終更新日付	2014 年 3 月 31 日	記載責任者	中川 正史
---------------	-----------------	--------------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	学生満足度アンケートの実施 学生面談時の情報収集	学生満足度アンケートは個々の授業に関して学生の意見を吸い上げるものである。評価が良くないものに関しては改善策を話し合い、実行している。	実施回数がまだまだ少ない。そのため、各ステップの授業終了時に学生理解度アンケートや学生満足度アンケートを実施する予定である。	学生理解度アンケート 学生満足度アンケート
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	学生アンケートの実施 学生面談時の情報収集	収集した情報はフィードバックし、評価がよくない点があった場合は、改善策を学科内で話し合うようにしている。	1学年の学生数が多いため、各意見を全て反映させることは無理だが、方向性を感知して改善している。	学生理解度アンケート 学生満足度アンケート

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生評価は学校評価であると考え、得られた情報を生かして学生満足度の向上を図る。今後も様々な分野で積極的に実施し、改善できる努力をしていく必要がある。	学校満足度向上に向け今後も積極的に実施して、常にフィードバックから修正につなげる態勢をとっていきたい。学生の声と現場のフィードバックに差異が生じないように努力していかなければならない。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	資格を備え、教育力を備えた教員を確保している。	資格要件の確認だけでなく、実績・実力ある教員を採用している。	建学の理念を理解し共感できる教員を優先的に採用している。それぞれの時期に必要とする人材を採用している。	教員資格に関する書類
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	講義科目に関しては、国家試験時、あるいは業界で必要になる知識以上の専門性を有している。実技科目に関しては、臨床経験を重視し採用しているため、十分対応できている。	講義科目担当教員については、それぞれの全国歯科技工士教育協議会編集歯科技工士教本を使用している。実技担当教員に関しては、歯科技工士会所属の教員を採用している。	自分の専門以外の基本的実習が担当できない教員もいる。専門性を高めるとともに、歯科技工士としての経験を重ねていくことも必要である。	教員履歴書
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学生アンケートや面談時の学生の意見・公開授業を参考に把握している。	より専門性の高い教員が評価・アドバイスをおこなうことにより、さらにそれぞれの教員が専門性を高めるよう取り組んでいる。	教員の積極的研修の参加を促す。	学生アンケート
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	関連学会や全国歯科技工士教育協議会の研修会に積極的に参加する、また滋慶教育科学研究所の研修を通じ、指導法だけでなく、カウンセリング法やマネジメントなど学生指導、クラス運営に関する多岐にわたる自己研鑽を奨励している。	各自がそれぞれの研修に参加している。	学内においても、夏季や冬季の学生休暇を利用して教職員が自主的に研修を行っている。更なる内容の充実でより良い教育への反映を目指していきたい。	研修修了書 JESC 研修

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか.	基礎的な教授力は極めて重要であり、各専任の先生間で教授法についての勉強会を実施し、統一した教授法の確立を目指す必要がある.	学生満足度アンケートから授業の教授法も含めて改善を実施している.	専任講師間による教授法の勉強会を実施し、統一した教授法の確立を目的として勉強会を実施していく予定である.	平成 24 年度自己点検評価アンケート(学生満足度アンケート)
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか.	全技協、関技協、大専各主催の教員研修および各種学会に積極的に参加し、各専任のスキルアップを行う必要がある.	全技協、関技協、大専各主催の教員研修および各種学会に積極的に参加して、各々のスキルアップ向上を図る努力をしている.	教員としての到達目標が不明確なため、各専任によりスキルアップの方向性の統一が図れていない.	研修修了書 学内研修資料 学外研修資料 学会参加資料
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか.	教員間のリレーションを含め、実習を協業して行う上で、極めて重要である.	実技に関しては専任講師同士だけでなく、専任と非常勤の先生とが学年ごとに実技担当者間で現状を確認している. 前期、後期講師会議でも担当者間で打合を行っている.	全ての教科において会議等の開催が必要と思われる.	講師会議(分科会)議事録
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか.	同じ実習をご担当して頂く先生同士が同じ手技・手法で教授していく必要がある.	講師会議(分科会)の開催.	実習においては時間をかけて深く検討する必要がある内容もある.	講師会議(分科会)議事録

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	教員資格，適性等を勘案し採用する。	採用時に履歴書の他，面接等を実施して判断している。	自校卒業生の採用においては人間性や学力についてはほぼ把握できていたが，他校卒業生も公募するには採用基準の検討が必要である。	教員資格保有の証票類等

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
厚生労働省に基づく業務をおこなう上で最も大切なことはソフト面＝人材であり，良い人材を採用することはもちろん，職場環境作りが重要である。そのための意識は専任教員・非常勤講師ともに高い水準を維持できている。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	国家試験合格までの各学年での目標到達度知るためにも成績評価は重要である。学生便覧・内規・シラバスなどに明確に記載し、周知している。	出席，成績，基礎実習および実習試験から総合的に判断し，具体的数字を挙げて明示している。入学時・進級時に成績基準について毎年オリエンテーションを行っている。	教員にも学生にも様々な書類で周知させているため，相互の誤解もなく問題は発生していない。	学生便覧 試験・学習の評価内規 シラバス
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	歯科技工士の養成は2年以上の教育機関で単位取得型ではなく科目履修型の為、単位認定や単位互換は法律上できない。	歯科技工士の養成は2年以上の教育機関で単位取得型ではなく科目履修型の為、単位認定や単位互換は法律上できない。	特になし	特になし

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
成績評価は明確な規定を基に書類が作成されており，教員・学生ともに周知されている。これまで問題なく運用されているが，今後は教員，学生および保護者の三者による共通理解項目として実施していきたい。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか.	「歯科技工士養成所指定規則」に則ってカリキュラムが定められている.	本学科カリキュラムは、「指定規則」に規定された内容以上の時間数となっている.	入学生全員の国家試験合格を目指していかなければならない.	学生便覧
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか.	I部とII部で定められた要件をクリアしていけば国家試験取得が可能になる教育内容である.	通常の科目に加え、最高学年では選択必修科目で国家試験対策の科目を設けている.	成績不良者に対してはカリキュラム外の補習授業が必要となっている.	シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
国家試験取得は学生生活最大の目標であるが、全ての学生を合格させるためのカリキュラム編成や体制をとらなければならない。創立以来、国家試験に関しては高い合格率を維持できている。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

基準4 教育成果

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育成果を計る指標は国家試験の合格率である。次に専門職としての就職率である。その目標達成のために学校満足度の向上は不可欠である。学生が何を望み、何に不安を感じ、それらを理解し、学生の目標達成のために学校は努力していかなければならない。</p> <p>さらに、学校満足度アンケートだけでなく、日々のカウンセリングにより心の状態を把握することが重要である。志半ばで夢をあきらめることがないよう学習的指導と生活的指導を行っていかねばならない。</p> <p>また学外における在校生・卒業生の活躍は、現段階では学校へ申告があったものみの把握となっている。今後、同窓会 WEB などを活用して双方向の情報のやり取りができるシステムを構築していきたい。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職率は100%を目標とし、就職担当者と教員が中心とした就職指導體制があり、卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率の向上が図られている。	I部(1年後期)とII部(2年後期)に就職に対する心構えを浸透させるため、マナーやセミナー等の開催を実施している。	就職委員会が行うセミナーや学内企業説明会(参加企業9社)、歯科技工士会が行う技工所ガイダンスや企業見学会など、就職への意識付けが教育成果にもつながると考え、早い段階からの取り組みが必要である。	就職関係資料 個別相談資料
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	就職成果とその推移に関する情報を公表する。	年度報告資料を作成することにより、具体的な件数は把握できている。	就職後の早期離職者の把握は困難を極めている。	キャリアセンター資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
就職情報は就職説明会の実施や求人票で連絡している。早期の就職先獲得と就職内定も比較的上手く流れている。求人票の中から学生の希望先の就職先を選定し、安定した企業に就職させることが重要である。また、毎年この卒業生を採用したいと思われる環境をつくりたい。	転職が多い業界であるため、業界との対策連携が重要課題である。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか.	国家試験の分析、傾向と対策を専門に行う担当者を設置している。グループの国家試験対策センターから提供されている JWEB（携帯で国家試験対策）などを活用している。授業時間外での指導に加え、長期休暇を利用した補講も行っている。	資格取得率の向上には留年生や退学者もゼロが不可欠、対策として学生満足アンケートや個別面談等の回数を年々増やし、学生一人ひとりに対してのカウンセリング、個別指導を行っている。	退学者や留年生を減少させることを目的として、放課後や長期休暇における学科補習の充実を行い、学生一人ひとりの対応を怠らない。	全国歯科技工士教育協会アンケート資料
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか.	在校生のみならず、卒業生の資格取得者数とその推移を把握する。	把握できている。	特になし	学生募集資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
合格率は約 100%を維持できている。効率の良い指導を行うために学力格差を軽減する必要がある。入学後の学力格差を軽減するために、さらなる入学前教育・導入教育の充実が求められる。	特になし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	学生に夢と希望が持てる学校教育を目指すことが、退学率の減少に繋がるものと考えられる。	留年生や退学者もゼロではないのが現状、対策として学生満足アンケートや個別面談等の回数を年々増やし、学生一人ひとりに対してのカウンセリング、個別指導を行っている。	退学者や留年生を減少させることを目的として、放課後や長期休暇における学科補習の充実を行い、学生一人ひとりの対応を怠らない。	教育指導要領 個人調書
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入退学者数とその推移に関する情報について把握する。	全体会議で学生現況について教職員に報告している。	特に問題なし。	全体会議議事録

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
退学者を減少させるためには、学力不足によるものが多い。そのため、補習、放課後および長期期間中に具体的勉強法の教授を含め、繰返して補習を行う。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	在校生のみならず卒業生が業界でいかに活躍しているかの評価を把握する。	卒業生はもちろん在校生の社会的活躍は本人の自己申告によるところが大きく、把握しきれないことが多い。	業界での活躍など把握できるシステムを構築していきたい。	同窓会資料
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	業界や社会で活躍できる人材を育成していく。	業界では歯科技工士の役員など活躍する卒業生がでてきている。また、QDT（商業誌）への投稿なども多くなった。	卒業生が活躍できるような環境を常に提供することが重要であると考えられる。	同窓会資料
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	学術的な発表をおこなう学生・卒業生を輩出する。	業界学会のコンテストや学術発表会での表彰等も年々増加傾向にある。	卒業後も自らが行動して、積極的に学術発表やテクニカルコンテストに参加する卒業生を排出できる環境の整備を行う。	日本歯科技工学会誌 学術大会抄録
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	在校生・卒業生が外部で評価される人材を育成する。	在校生においては学会や企業が開催するコンテストで成果が上がっているが、卒業生では少ないことから尚一層の活躍を促したい。	今後優れた人材を輩出できる態勢をとっていきたい。	日本歯科技工学会誌 日本歯科技工士会発行日本歯技

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
在校生においては、業界のテクニカルコンテストに参加して入賞するなどの成果を得てきた。卒業生の把握に関しては自らの情報発信に頼るところが多く、今後、HPなどをさらに利用して情報を把握する必要がある。	特になし

基準5 学生支援(歯科技工士学科)

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>入学した学生全員が目標達成に向け頑張っていける環境作りが学生支援だと考えている。ネガティブな事案はポジティブに、ポジティブな事案はよりポジティブになるようサポートしていかなければならない。学生の学校生活全般にわたるサポートとして以下の6つに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職サポート ②カウンセリングサポート ③学費サポート ④健康サポート ⑤課外活動サポート ⑥一人暮らしサポート <p>上記以外にも、学生と学校の関係だけでなく、保護者にもご理解をいただき、成績や出席状況などを共有し、保護者と学校が協力して目標達成へのバックアップ体制を構築している。</p> <p>また卒業生へのサポートとして同窓会が中心となった勉強会の開催や、卒業生を対象とした就職転職もキャリアセンターが行っている。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	就職担当者と最高学年の担任が中心となりきめ細かな支援を実施する。	I部, II部のクラス担任と就職担当者が有効に機能している。	就職指導/相談室を設けていない。	就職指導資料
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	就職オリエンテーションが実施されている。	就職ガイダンスだけでなく, マナー教育やモチベーションセミナーなども含め, 就職にいたるプロセスが実施されている。	就職担当者の人員が不足しており, さらに充実させていくには人員増が望まれる。	就職指導資料
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	就職担当者を中心に, 最高学年担任など就職担当教員が学生個別相談をおこなう。	就職担当者及び担任での相談・担任への相談など, 多重構造で対応しており, 学生は気軽に相談できる。	特に問題はない。	就職指導資料 個人調書
5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	就職ガイダンスにより就職担当者が指導する。	就職に関係する広い情報を提供し, はじめて就職する学生の支援態勢ができています。	特に問題はない。	就職指導資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
事務局就職担当者, 教務および同窓会組織の連携を円滑にし, 優良企業への就職先の選別と早期決定を行うための行動ができています。	

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	担任が定期的な個別面談をおこなっているほかカウンセラーが定期的に学生相談を実施する。	担任を中心に面談時に問題がないか学生に確認するほか、カウンセラーが学生相談を行っている。担任以外でも随時相談事があれば相談に乗る。	問題がありそうな学生に関しては教職員が声を掛け、コミュニケーションをできるかぎり密にとっていくことが望ましい。	個人調書
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	カウンセラーが学生相談を実施している。	月2日カウンセラーが予約制で学生相談を実施している。常駐しているカウンセラーはいない。	常駐しているカウンセラーがいない。予約制となると学生も相談を躊躇することがある。	個人調書
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生の受入れ態勢を整備する。	現状では創立以来留学生の受け入れは数人いた。しかし、日本語が出来たため、対応に困らなかった。	受け入れ体制については今後教職員スタッフの英語のレベルアップが必要であると思われる。	教育指導要領

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生相談は担任を中心とする専任教員とカウンセラーなどの専門家の両面で対応していくことが望ましい。現時点で専門家による相談は制限が多いため専任教員によるものが大半を占める。しかし、問題が大きいときはカウンセラーに委ねることができるという態勢である。留学生の受入れに関しては教職員スタッフの英語のレベルを向上することが重要であると考えられる。	精神面での問題を抱える学生が増えているように思われるが、カウンセラーと担任の連携が必要になってくる。個人情報でもあるため相談内容については取り扱いに細心の注意が必要である。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	経済面に不安をかかえる学生に対しては、奨学金による支援をおこなう。	事務局に奨学金担当がおり、説明会を開くなど支援できる体制をとっている。奨学金を受給することにより学業を継続できる学生は多い。	特に問題はない。	事務局奨学金担当資料
5-25-9 学費の分納制度はあるか	学費を一括で納入できない学生には分納制度で対応する。	分納制度は一律でなく、個別に分納のプランを立て、無理のない範囲で支払いができる体制で支援している。	特に問題はない。	事務局資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
経済的な問題を抱える学生は増加傾向にあると思われる。学校側が奨学金や分納制度により学業を続けることができることも多いため、支援体制を構築しておくべきである。本校は奨学金に関する体制が充実している。	経済的側面の支援は整備されているといえる。サポートスタッフとしてファイナンシャルアドバイザーが常駐しており、奨学金や学費分納、奨学金返済の相談にのっている。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	学校保健安全法に基づき定期健診により学生の健康面への支援体制が充実している。	学校保健安全法に基づき健康診断の実施はもちろん、再検査あるいは精密検査が必要な学生には受診を促している。	再診率の向上に取り組んでいかなければならない。	教育指導要領
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	専門家の視点で学生の健康相談ができるグループ内のクリニック（慶生会）や近隣の医院等と連携	健康相談に応じる医師が近隣に開業されているので、いつもその先生が対応してくれている。	健康相談のための医師や看護師を常駐させるのはむずかしいができる範囲で行う。	教員名簿

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
健康診断後の学生のフォローを中心に、専門家医への受診と治療を促している。	特になし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか。	スポーツ等のクラブ活動、その他ゴスペル部など課外活動に対する支援体制を充実する。	学友会主導の下、学生同士の話し合いの中で決定している。土日祝日の校舎の空いている時を利用して各種クラブ活動の場を内外に開放している。	課外活動参加が学習活動の妨げにならないように指導していかなければならない。	校友会資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
課外活動に費やす時間の確保が困難であるため、クラブ活動等は活発ではないが、そのような中でも活動している学生への支援は行っていきたい。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	支援は行われているといえる。グループが運営する寮長寮母が常駐する寮や、自炊型学生マンションなどが設置されている。経済面で入寮が困難な場合は、信頼のおける学生マンションなどの情報提供も個別に対応できている。	多くの学生が滋慶学園グループの所有する学生寮に入居し、生活している。	担任を中心とした一人暮らしの学生への生活面での更なるケアが必要とされる。	入学案内

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
入学生や在校生はいつでも学生寮を斡旋できる環境にある。多くの学生が学生寮に入居して生活している。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか.	保護者との連絡は密に取り、良好に関係が保てている。保護者会以外でも希望があれば、個別の対応は実施している。情報を交換することで家庭と学校双方のバックアップ体制が築けている。	入学前には保護者説明会を開催して現状を把握している。また、入学後も保護者に電話連絡、あるいは来校して頂き面談を行っている。	特に問題はない。	教育指導要領

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
定期試験で成績不良者は保護者と学生と三者面談を行い、現状の問題を明確にし、理解して頂いて成績向上を図る。また、保護者の方々への協力を促し、学校、学生および保護者との連携を行う。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会支部活動や卒後教育の充実を図る。	同窓会はしっかりと機能している。学術講演会は基より、大阪を本部として11支部で年一回支部会が開催され、卒業生との交流会が行われている。	在学年から同窓会活動に積極的に組み込むことで、卒業後の同窓会活動の参加が期待できる。	学生便覧（同窓会規約）
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	卒業後のキャリアアップ等による職場の転向相談・生涯学習の支援をおこなう。	職場の転向は卒業後何年たっても行っている。また同窓会活動を通じて、学校が情報発信の場になることにより、生涯学習の支援に十分になっている。	特に問題はない。	学生便覧（同窓会規約）

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生が業界で活躍するためには同窓会活動や卒後教育などで卒業生をフォローアップしていくことが重要である。同窓会活動は非常に有効に機能している。また、新大阪テクニシャンクラブなど業界や在校生との交流も広くおこなわれており、継続して活発な活動をおこなっていきたいと考える。	特になし

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

基準6 教育環境

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育成果を上げるためにも、資器材の充実は重要である。</p> <p>学科の事業計画作成時に次年度必要な資器材の予算が組まれてういる。パブリックスペースについては施設設備担当者が日常の点検を行っており、不具合があると対応している。</p> <p>海外研修においては、その専門性に特化した世界最先端の知識技術を学べる内容でプログラムされている。</p> <p>防災に関しては、消防計画に基づき毎年訓練を行っている。また、グループ作成の防災マニュアルや、緊急連絡網、安否確認システム等を導入している。</p> <p>教育環境の整備に関しては、IT やタブレットなど IT を用いた教材利用などが望まれる。効率よく学習できる環境を整備するための方法論に関してはまだまだ工夫の余地があり、今後新しい教授法に基づいた教育環境の整備を引き続き行っていたいと考えている。</p> <p>今後さらに教育環境を整備し、安心安全でより学びに適した学校づくりが必要である。</p>	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づいた施設・設備はもちろんのこと、さらに充実させるための整備をおこなう。	校舎設備だけでなく、学習のための備品を年々充実させている。	タブレットなど IT を活用した機材の開発・活用が課題。有効な利用法を模索していきたい。	学科会議議事録 講師会議議事録 (前期/後期)
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	新しい施設・設備の導入だけでなく、既存のものに対してはメンテナンスをおこない環境を維持する。	日々の点検に加え、特に長期休暇中には一斉に点検をおこなっている。	大規模なメンテナンスの場合、予算申請から実行という流れが必要なため、実行までに時間がかかることがある。	全体会議議事録
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	計画にもとづいた定期的なメンテナンスをおこない、常に整備された環境で学習できるようにしていく。	教室や廊下など校舎全体にかかわるメンテナンスは計画的におこなわれている。学科単位の定期的なメンテナンスは不十分であると考ええる。	メンテナンスのための予算を毎年計上し、計画的なメンテナンスをおこなっていった。	全体会議議事録

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
施設・設備は、厚生労働省の指導要領に基づき教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているといえる。医療従事者として意識を高めるために、「環境の整備」は必須事項である。	特になし。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
---------------	------------	--------------	-------

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	外部関係機関等と連携し、手続き面に関係する機関、および受け入れ先の機関とも十分に連携し実施する。	IDS（世界デンタルショー）、歯科関連メーカーの見学、ドイツおよびフランスでの海外研修をおこなっている。また、夏期に歯科技工士会主催の歯科技工所見学に参加している。	開かれた教育を目指し、今後も積極的に取り組んでいきたい	海外研修報告書 技工所見学報告書
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	教育効果を検証し、その結果によりさらに充実させる工夫、あるいは変更点を検討している。	それぞれの研修に対する学生アンケートを実施している。	アンケートを基に魅力的で学生満足度の高い海外研修の実施を目指している。	海外研修報告書 技工所見学報告書 学生アンケート

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
海外研修，日本歯科技工学会，技工士会等の講習会の学生参加により，学生満足度の高い教育体制が整備できている。	学外実習や海外研修について十分な教育体制を整備している。隔年ではあるが海外研修が実施されている。また学会発表や業界団体での訓練にも積極的に参加し、教育成果を得ている。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	想定される災害に対する防災体制は整備されており、緊急連絡メールシステムが設置されている。損害保険等にも加入している。避難訓練等を行っている。学生には、防災マニュアルが配布されている。	教職員の防災訓練，学生への啓蒙活動などを，定期的におこなっている。また，火災報知器なども整備されている。非常勤講師には「防災マニュアルブック」を配布している。	実際に有事があった際にどこまで有効に機能するか、不安がある。	防災マニュアルブック
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	災害を起こす可能性のあるものに関して，その危険性を喚起する。	機器の取扱いにより，火災が発生する可能性が高いことは何度も伝えている。	災害時の訓練を定期的を実施する必要がある。	防災マニュアルブック
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	事故防止のためのマニュアルを作成するなどして，徹底しておこなう。	マニュアルを作成し，学生への啓蒙をおこなっている。	実習担当職員に徹底されていない面も多い。今後さらに重要性を訴えていきたい。	防災マニュアルブック
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	学校全体で保険に加入を必須とする。	損害保険に加入し，実際に利用されている。	現時点で特に問題はないが，オプションなどにより，個々対応できるような個別対応も検討していきたい。	事務局書類

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	教職員・学生ともに定期的に防災訓練を実施して、有事に備える。	学生、教職員に対しては例年7月に訓練を実施している。学生・非常勤講師に対しては「防災マニュアルブック」を用いての説明と具体的な避難経路などの説明し、訓練を行う。	常日頃から危機管理を行う	防災マニュアルブック

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
防災は事が起こってしまってからでは遅いため、常日ごろからの訓練や啓蒙活動が重要となる。防災設備に不備はないと思われるが、高い意識のもと防災訓練をおこなえるようにしなければならない。	登下校時における有事の際の安否確認が重要である。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	中川 正史
--------	------------	-------	-------

基準7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校では学生募集を単なる学生募集業務として捉えず、入学前教育と位置づけている。</p> <p>「専門学校を希望する人たちに目指す業種や業界、滋慶グループでの授業や生活をわかりやすく理解してもらい、自分の目指すものを明確にし、夢とやる気を持ってもらうためのプレスクールであり、自己発見のサポートである」と定義付けている。</p> <p>綿密に計画された広報計画書を基に目標が定められ、スケジュールが組まれている。広報担当者を中心にサッカー型の広報を展開し、教職員が一丸となって取り組んでいる。</p> <p>学校定員を下回ることなく順調に推移している。</p> <p>学生募集活動の適正さや客観的判断を知る為に、入学者・非入学者アンケートを取り確認している。</p> <p>入学選考については、大阪府専修学校各種学校連合会の定めた規定に従っている。入学選考や入学手続きに関しては、全て募集要項に記載されており、入学希望者に配布されている。</p>	<p>学校案内・ホームページ・媒体紙・DM など、学校から発信される情報は、事実に基づく実績、学校生活をイメージさせる在校生紹介、卒業後をイメージさせる卒業生の活躍や業界の展望を紹介している。高校生向け既卒者向け保護者向けなど、対象者別にリーフレットが作成されている。</p> <p>体験入学においては、学校、学科の説明だけでなく、目指す資格や職業がイメージしやすい職業体験や、個別相談の時間が設けられ参加者目線に立った運びとなっている。運営は教職員だけでなく在校生から起用した学生スタッフもあっている。昼間に行われるオープンキャンパスに参加できない社会人やクラブ活動をしている高校生に対しては、平日の夜にⅡ部授業見学会(Ⅱ部ケン)を実施している。</p>

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	大阪府専修学校各種学校連合会の規定に基づき、適正に行っている。広告倫理委員会・個人情報保護委員会などを設置し管理している。	事務局を中心に学生募集を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット ・ホームページ ・リーフレット
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	志望者のみならず保護者の理解も得られる広報活動を目指している。	志望者や保護者など、対象別のリーフレットを作成している。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット ・ホームページ ・リーフレット
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	志望者や保護者の問い合わせに対応できるシステムを構築している。	入試・国家試験・就職・学費など用途別の相談に対応できるよう案内している。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット ・ホームページ
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	定員（募集目標数）を満たす学生募集を目指している。	毎年、広報企画書を作成し募集定員を満たしている。	高校卒業者や社会人、などへの広報の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎資料調査

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年、広報担当者を中心に綿密な広報計画書が作成されている。入学者アンケート、非入学者アンケートによる客観的なデータをもとに募集活動内容の見直しや変更を適時行っている。学力レベルの低下に対する合格決定後の指導の充実はもとより、入学前における職業への理解や意思の確認、モチベーションの持続に努力しなければならない。	

最終更新日付

2014年3月31日

記載責任者

満尾 宏史

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	実績や卒業生の活躍、業界情報は正確に志望者に伝えることを目標としている。	就職実績や資格取得実績は学校案内・ホームページ等でデジタル化したデータに加え詳しく説明している。	教育成果だけでなく、その成果に達するまでのプロセスの重要性も伝えていかなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット ・ホームページ
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	志望者に卒業生の活躍を紹介し、自らの将来像をイメージすることが重要であると考えている。	学校案内での紹介だけでなく、実際に卒業生が来校する体験入学も行っている。志望者の入学理由においても、就職実績という理由が多い。		<ul style="list-style-type: none"> ・入学後アンケート

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
国家試験結果・就職結果を伝えるだけでなく、志望者に将来像を抱かせ明確な目標目的を持たせることが重要である。卒業生の活躍はその具体例として明確であると考えている。入学前の期間を入学前教育と位置づけ、在学中はもちろん卒業後教育まで一貫した教育を実践している。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考基準は適正かつ公平な基準に基づき行われるべきだと考えている。	入学試験判定会議によって合否が判断され、議事録にて記録されている。	総合的な判定からみる入学試験時の適性確認だけでなく、将来における医療専門職適性も判断として加味していかなくてはならない。	・入試判定会議議事録
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学選考の状況は、全教職員が関心事として取り組むべき課題と考えている。	広報担当者から朝礼や会議での報告に加え、適時教職員が確認できるよう教務室に掲示されている。		

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理事長、校長に加え各セクション責任者と学科教員とで構成される入学試験判定会議が試験ごとに開催される。適正かつ公平な基準をもとに行われている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	学納金は、妥当だと考えている。充実した教育と快適な学校生活を提供するため学納金を設定すべきものと考えている。	学納金による負担の軽減策として分納制度や奨学金、教育ローンを紹介している。	設定された学納金に対して、質の高い教育を提供することが重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項 ・奨学金教育ローンのサポートBOOK ・学費支援のご案内
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者に対する授業料等の返還は適正に処理されるべきものと考えている。	辞退者の授業料返還に関しては募集要項に記載しており、適正に処理している。		<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学校運営の基礎となる学納金について、会計担当者を中心に常に把握しておくべきものと考えている。	本部会計より学校会計担当者に適時報告されるシステムが構築されている。		<ul style="list-style-type: none"> ・経理資料

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学納金は募集要項への記載だけでなくさらに詳細に説明が記載された専用のリーフレットを作成している。また研修を何度も経験したファイナンシャルアドバイザーの職員が説明を行っている。	奨学金や各種教育ローンなどの学費サポートシステム活用し、経済的負担の軽減に努めていきたい。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

基準8 財務

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。予算・収支計画は有効かつ妥当に執行されており、充実した教育を提供できる環境にある。中長期的に安定が見込める。</p> <p>監査による指摘点は即時是正されている。また情報公開に向けた取り組みとして、適正な資料が作成されている。</p>	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	財務基盤の安定を運営目標としている。	毎年作成される予算計画において5年後までの収支を作成し、収支計画書に沿った運営がなされている。		事業報告書
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	財務数値にかんする情報は常に正確に把握されるべきものと考えている。	本部会計より適時変動状況の報告があり把握している。		事業報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-39-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっている。	年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっており、毎年5年先までの収支計画が立案されている。		<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・事業報告書
8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	予算は計画に従って妥当に執行されなければならない。	計画的に執行されている。		<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・事業報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>予算・収支計画は有効かつ妥当に執行されており、充実した教育を提供できる環境にある。中長期的に安定が見込める。</p>	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-40-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	財務について会計監査が適正におこなわれるべきであると考えている。	毎年、監事 1 名による決算書類の監査を実施している。		<ul style="list-style-type: none"> ・決算書類 ・監査報告書
8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	決算終了後すみやかに行われ、監事による指摘を是正して行く必要があると考えている。	毎年 5 月に監事・本部会計担当者で監査を実施している。		<ul style="list-style-type: none"> ・決算書類 ・監査報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
会計監査は適正に行われており、監事による指摘点は是正されている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報公開の依頼があれば速やかに開示できる準備が必要と考えている。	適正に資料の作成が行われている。		・財務情報公開用決算書
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	私立学校法に則った財務情報公開資料の作成が必要と考えている。	適正に資料の作成が行われている。		・財務情報公開用決算書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
情報公開に向けた取り組みとして、適正な資料が作成されている。	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

基準9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校は専修学校設置基準に基づき学校を設置し、歯科技工士学校養成所指定規則に基づき学科を設置している。</p> <p>また理事会をベースにコンプライアンス委員会、個人情報保護委員会などを設置し、法令順守に基づき適正な学校運営をおこなっている。</p> <p>教育においては各学科（各国家資格）でコンプライアンスの重要性をカリキュラム（関係法規等）に落とし込み実施している。</p> <p>個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。志望者に対しては、募集要項にその情報の用途を明記し、学校の姿勢を示している。</p> <p>自己点検自己評価の実施を現在進めており、学校関係者評価の準備も開始されている。</p>	

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	コンプライアンスに沿った適正な学校運営がなされるべきと考えている。	法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされている。監事に監査も適時おこなわれている。		<ul style="list-style-type: none"> ・基本調査 ・基礎資料調査 ・五条報告
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員全員がコンプライアンスに沿った教育活動を行うべきと考えている。学生においてもコンプライアンスの理解は重要であると考えている。	教職員については運営会議や全体会議での研修を実施している。学生においては、各学科での医療概論や関係法規の授業で行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ・議事録 ・シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法令は遵守すべきものあり、特に指定養成校にとっては細かな法令をも理解していなくてはならない。法令遵守は教職員のみならず国家資格有資格者となる在校生の理解も重要であると考えている。現在本校はコンプライアンスに沿った学校運営がなされているといえる。	法令は遵守すべきものであり、特に指定養成校にとっては細かな法令も理解していなくてはならない。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学校が保有する個人情報は厳重に管理されるべきと考えている。	学校が保有する個人情報は厳重に管理されている。個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が設置されている。 また適時、エイドトラストエージェンシーによる個人情報保護の取り組み状況ヒアリングが行われている。ホームページにおいては、TRUSTeプライバシーライセンスを取得している。	SNS における個人情報の流出や被害防止を目的に教職員、全学生を対象に IT リテラシーの勉強会を次年度開催予定	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護規定 ホームページ TRUSTe 認証ライセンス
9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員全員が個人情報保護法に基づいた教育活動を行うべきと考えている。学生においても個人情報保護法の理解は重要であると考えている。	教職員においては学内に設置された個人情報保護委員会により全体会議などにおいて啓発が行われている。 学生においても、個人情報保護委員会より学年始めのオリエンテーションを利用し啓発している。		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護規定

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。	学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員や講師、学生において更なる理解が必要である。

最終更新日付

2014年3月31日

記載責任者

満尾 宏史

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価の定期的実施、それによる問題点改善が重要と考えている。	現在、自己点検自己評価を作成しており、完成後、問題改善に向け取り組もうと考えている。		
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検・自己評価に関する方針は確立が重要と考えている。	学内に横断的な自己点検自己評価委員会を設置し実行方針を定めている。		
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝えるべきだと考えている。	現在準備中である。		

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
自己点検・自己評価の準備を現在進めている段階である。	PDCA サイクルでより良い学校を目指していかなくてはならない。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検・自己評価結果の公開は重要であると考えている。	現在準備中である。		
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されなければならないと考えている。	現在準備中である。		
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝えるべきだと考えている。	現在準備中である。		

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
自己点検・自己評価の準備を現在進めており、平行して学校関係者評価の準備もしている。	PDCA サイクルでより良い学校を目指していかなくてはならない。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

基準10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションをもって学校が運営されている。教職員や学生たちがそれぞれの専門性と学校が持つ教育資源を活かし、企業や地域団体などと連携しながら、さまざまな分野で社会貢献活動に取り組んでいる。</p> <p>生涯教育においては同窓会が中心となって活動しているが卒業生だけでなく、地域・社会に開かれた学校を目指して取り組んでいる。</p> <p>学校施設については地域の献血ステーションとして会場提供している。</p> <p>社会問題への取り組みとしては、地球温暖化防止を目指しエレベーターの使用制限(2 アップ 3 ダウン)、廊下電灯の間引き点灯、空調の温度設定 28 度キープ、使用電力メーターを設置している。ゴミの分別、ペットボトルのキャップ集め(ワクチン)も行っている。クールビズも実施している。</p>	<p>現状として本校は、地域ボランティアに積極的に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根の共同募金に協力している。 ・年に一度、学校施設を地域の献血センターとして開放 ・業界関係者や同窓会、卒業生にに対し、講習会や勉強会等に施設の貸出しを行う ・学園祭での地域交流

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流は重要と考えている。	学校関係者以外が参加可能な講習会や講演会が実施されている。学園祭では、大人だけでなく地域の子供が参加しやすい環境を整えている。	今後、もっと学生が参加できる地域交流との連携を計画していきたい。	
10-46-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援は重要であると考えている。	生涯学習・卒後教育に関しては同窓会等が中心となって講習会等が行われている。雇用促進に関しては、在校生だけでなく、卒業生に対しても就職支援を行っている。	今後さらなる生涯学習事業や雇用促進への支援を強化していきたい。	
10-46-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	学校の施設・設備を開放するなど、地域社会との連携は重要だと考えている。	業界の講習会、勉強会や献血会場等として校舎を使用している。	さらに地域社会に貢献できる連携を考えていきたい。	
10-46-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っている。	学科教員が、浙江中医薬大学口腔科学生の実習指導を行っている。海外研修を実施している。	卒業後、国外において国家資格を生かせる状況が望ましい。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	専門的な教育のみならず、重要な社会問題についての認知と理解は重要と考えている。	教職員には講習会や朝礼、会議等で啓蒙し、学生においてはホームルームなどで説明している。	重要な社会問題に関する啓蒙活動は、キャリア教育の一環として、今後システム化していく必要がある。	
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	学校として重要な社会問題に取り組むことは重要であると考えている。	IT リテラシーの問題や、地球温暖化、節電対策など、エレベーターの使用制限(2アップ3ダウン) 無駄な電気の消灯などに取り組んでいる。赤い羽根募金に募金している。	重要な社会問題への具体的な取り組みをシステム化させ、個人差の大きい取り組みレベルの全体的な底上げが今後望まれる。	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>専門的な教育のみならず、重要な社会問題についての認知と理解、それへの取り組みは重要と考えている。</p> <p>地球温暖化に関してはグループ全体の取り組みで消費電力の節約に留意して日常生活を送っている。しかし、まだまだ個人レベルでは差が激しい。</p> <p>教職員だけでなく学生一人一人が真剣に取り組めるよう指導を徹底していきたい。</p>	<p>広く社会に目を向けるための啓蒙活動は、キャリア教育の一環として今後システム化が望まれる。</p>

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学生のボランティア活動を奨励、支援する体制が必要であると思われる。	数は多くはないがキャリア教育の観点から、学外研修の一環としてボランティア活動を推奨している。	今後、さらなる学生のボランティア活動を推奨していきたい。	
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	学生のボランティア活動状況の把握は重要である。	学校から学生に提示したボランティア活動は把握可能である。		

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校から学生に提示するボランティアについては、内容とその意義が十分に検討され安全面の確認がとれたものとなっており、学校が把握している。今後、もっと状況を把握して定期的継続的に奨励していく。また授業時間との兼ね合いも検討していかななくてはならない。	今後は学校としても授業時間との兼ね合いを考慮した上で、ボランティアに対して定期的継続的に奨励し、支援の体制を検討しなければならない。

最終更新日付	2014年3月31日	記載責任者	満尾 宏史
--------	------------	-------	-------

11-48 グローバル人材の育成に向けた取り組みを行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
11-48-1 各学科において国際教育は実践されているか	国際教育は実践されている。 国際的に活躍する人材育成に取り組んでいる。	IDS（世界デンタルショー）、歯科関連メーカーの見学、ドイツおよびフランスでの海外研修をおこなっている。 海外で活躍する卒業生も多い。	現代社会のグローバル化に伴い、専門的な歯科英語だけでなく、日常会話ができるように教育環境を整備する。	・海外研修行程表 ・海外研修報告書
11-48-2 グローバル人材育成に向けた取り組みは整備されているか	グローバル人材育成に向けた取り組みは重要であると考え、各業界における国際的な情報の提供、国際的コミュニケーション能力の向上を目指している。	中国(浙江中医薬大学)との学術交流は以前より行っており、今年度は以前より学術交流のあった台湾との学術交流の提携書も交わされ、より良い関係を結ぶ。今後も学術交流等を通じて世界に向け日本の歯科技工技術を発信するために準備を行っている。	現代社会のグローバル化に伴い、専門的な歯科英語だけでなく、日常会話ができるように教育環境を整備する。	・教育指導要領 ・学生便覧 ・シラバス

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
現代社会はグローバル人材の育成が必要とメディア等で行われている。本校でもグローバル人材育成に関してはいち早く取り組んできた。そのような現状は学生にも浸透しているように思われる。しかし、まだまだ学生にとっては国家試験合格に向けた学習に付加し、卒業後のキャリアアップの礎となる国際社会に目を向ける向上心が必要となる。学生のモチベーションアップに向けた指導や、継続教育に対する適切な情報発信が学校に求められる。	カリキュラムとは別に、セミナー形式で希望者に向けた英会話教室（ベーシックコース/アドバンスコース）を行っている。

最終更新日付

2014年3月31日

記載責任者

満尾 宏史